

事務職って介護職？

～サンセリテのがた事務職員としての介護～

施設名	サンセリテのがた
発表者	芝原 真由美
共同研究者	田原 加代子

当施設は、併設施設として、介護療養型医療施設（診療所）、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所があり、地域の医療・介護の提供施設として稼動しています。

事務部門は施設正面玄関横にある事務室を中心に日々業務を行っており、来所していただいた方を最初にお迎えするところであり、「施設の顔」としての役割があります。

事務職は看護・介護職とは異なり、利用者様を直接介護する機会は少なく、デスクワークが主となります。しかしながら利用者様・御家族、また施設職員と接触する機会は多く、窓口を通し相談、要望、苦情、時にお礼、感謝等その内容は多岐にわたっています。その結果、利用者様の介護に関する数多くの情報の収集・提供が行えており、いわゆる「ケアの裏方」としての役割を担うことが少なくないことを実感しました。

そこで今回、開設後 2 年経過し、これまでの業務経験を基に、「サンセリテのがたの事務職としての介護的役割」について、事例を挙げ若干の考察を加え報告いたします。